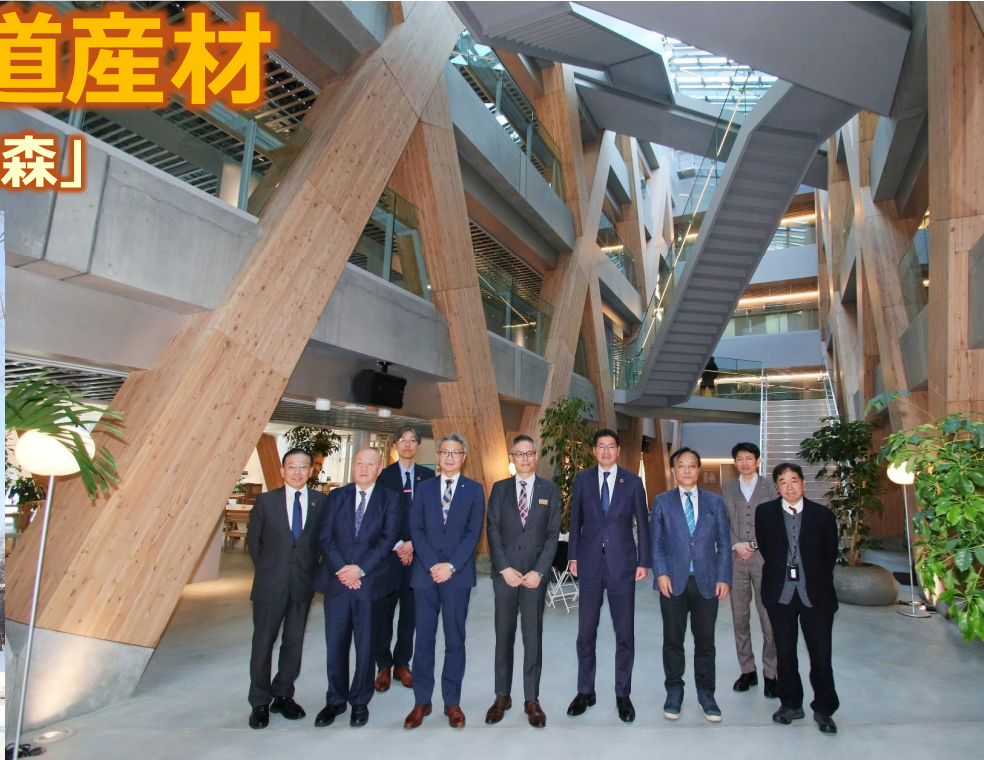
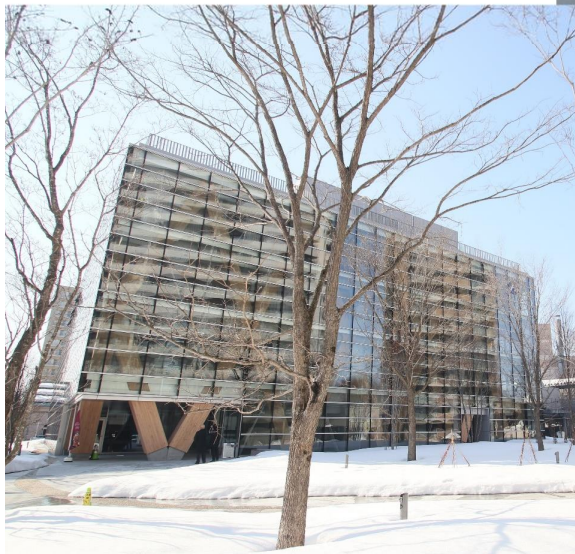


注目が集まる 道産材

「エア・ウォーターの森」



日本全国で戦後に植えられた人工林が育ち、豊富な森林資源を「伐って、使って、植えて、育てる」という循環利用を通じて、次世代に向けた持続可能な森林づくりを進める必要性が強まる中、道内でも道産材の有効活用への注目が集まっています。

2024年12月、産業ガス大手のエア・ウォーター北海道(株)は、札幌市中央区のJR桑園駅近くに、道産材をふんだんに活用したオープンイノベーション施設「エア・ウォーターの森」(札幌市中央区北8条西13丁目)を開設しました。道産材の建築材としての利用に大きなインパクトを与えた本施設を、北海道のオール林業・木材産業セクターのメンバーが訪問し、道産材利用のお礼を兼ねて建設に至った背景やその波及効果について意見を交わしました。

道民を「あっ！」と驚かせるものを 100%道産材へのこだわり

「エア・ウォーターの森」は北海道の社会課題の解決に取り組むことを目標とした、オープンイノベーションハブ施設です。

6年前当社の拠点集約化に伴い、道内にいる約5,000人の社員に「エア・ウォーターここにあり」を示すランドマークとなるべき建物を建てたいと思いを巡らせていた際、キーワードが二つ、一つは「オープンイノベーション」、もう一つは「森」でした。そこで竹中工務店様と相談する中で「森＝道産木材の活用」のイメージが出てきました。

当社は北海道と包括連携協定を結んでおり、その中に「林業の振興」が入っています。道産材を意欲的に使い、それを外に「あっ」と驚かせる形で魅せる事で、社員はもとより道民の皆様へ北海道の「森」を意識していただく。それこそが当社のできる北海道の森林や林業、木材産業への寄与と考え、100%道産材を活用する事にこだわりました。



エア・ウォーター北海道(株)
事業企画部 日谷部長

巨大な道産カラマツの斜め柱が 周囲から注目

「エア・ウォーターの森」は建物全体が断熱性に優れた3重のガラス張りのため、カラマツの巨大な斜め柱が遠くからも目立ちます。1階をレストラン、レンタルホールとして一般の方々に開放しており「この綺麗な建物は何だろう？」とご来場される方も多いとのこと。道産材を活用した家具を置いたオープンスペースでくつろぐ方も見受けられ、既に地域住民にとってランドマーク的な立ち位置を確立しつつあります。

また、スタートアップ企業やフリーランサーが集い、柔軟に働きながらコミュニケーションをとることができるコワーキングエリアや、道内各大学が専門分野を活かし北海道の課題解決を目指す、研究者同士の交流の場としての活用も始まっています。

道産材に囲まれた心地よい空間が、北海道の知の集約の場になるのではないかと期待も高まっています。





【北海道木材組合連合会 三津橋会長 内田副会長】

現在、全道の市町村に木造・木質化推進キャラバンを行っており、公共建築物の木造率を3割から7～8割に拡大したいと考えています。エネルギー業界の中でも先進的な取組をしている企業が道産材に注目してくれたことはとてもありがたい風潮で、この道産材に囲まれた建物の中で、多くの課題が議論され、道内に展開していくことを嬉しく思います。

【北海道森林組合連合会 有末会長】

森林資源の循環利用を進めるため、北海道は9割近くの森で伐採後に再造林を行い次世代に繋げています。先人が育ててくれた森林を私たちが木材として利用していることを感じ取れるこの場に、多くの人が集まることで、次世代へ森林を繋げていくことへの理解が進むことに期待しています。全道77の森林組合も一丸となって応援していきます。



【北海道水産林務部 岡嶋部長】



北海道では令和元年より、道産材を「HOKKAIDO WOOD」としてブランド化し、世界に売り込もうと建設業界や設計士の皆様にも仲間に入っていただき、様々な場面で木造化を進めてきました。「エア・ウォーターの森」はHOKKAIDO WOOD BUILDINGにも登録いただいております、このような道産材活用のシンボルとなる建物を、多くの方に見ていただけるのは本当にありがたいと思います。

【北海道森林管理局（前）吉村局長】

木材を活用するのは環境にも良いという空気が少しずつ浸透しています。企業からはカーボンニュートラルに注目が集まっていますが、一般の方にはもっと純粋に「木のこちよさ」を感じ取って、生活の様々な場面に木を取り入れていただきたいと思います。「エア・ウォーターの森」の認知度が高まり、波及効果が広がることに期待しています。



意見交換の中では、地域の森林資源を大切に利用することは、新しい文化を生むことにも繋がる、道産材を活用する事への理解を深めるストーリーを、多くの人々が共有することが大切だというコメントもありました。

道産材に囲まれた「エア・ウォーターの森」に多様な人が集い、北海道の森林・林業・木材産業を皆で盛り上げていけるストーリーが生まれることに今後も注目です。

「エア・ウォーターの森」の実現にあたって【竹中工務店 木造・木質建築推進本部 藤田専門役】



北海道らしさを感じさせるオープンインベーション施設を100%道産材（集成材575㎡）を用いた木造建築により実現しました。カラマツやトドマツなどの道産木材をあらわしで用いることができる耐火集成材「燃エンウッド®」を、外壁に沿ってA/W（エア・ウォーターの頭文字）と描くかの様に斜めに配置した木構造により「サスティナブル建築物等先導事業（木造先導型）」の採択も受けています。

木材調達においては、原木の伐倒を建築主と視察したほか、札幌市白旗山市有林の利用など、地域の森林の育て手や流通に関わる人の顔や木に対する情熱を目に見える形とすることで、木を巡る川上川下を繋げ、使い手の木材に対するストーリーや愛情を深める試みも行いました。



4層吹抜のインナーガーデンを中心に、光や風にあふれる自然と共生した内部と地域らしい植生による屋上や1階のガーデンは地域住民にも広く開かれています。施工においては「燃エンウッド®」が取り合う新しいディテールを開発し、都市木造建築の生産性と意匠性の向上を図りました。さらに、道産間伐材やパルプ/チップ用の丸太材、工事中に出る木の廃材を、家具・什器やサイン、床目地などに有効利用するアップサイクルの試みにも挑戦しています。

